

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	太陽の子世田谷船橋保育園
施設所在地	東京都世田谷区船橋4-13-7
法人名	HITOWAキッズライフ株式会社

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然・生き物

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

散歩に出かけた際に自然物に興味を示す子が多く、自然物を使いおままごとへと発展した。室内でもおままごとを楽しんだり、自然物を取り入れた活動を通し遊び込める環境を作り、じっくりと楽しみたい。

普段から戸外での活動が好きで、散歩に出かけた際には季節ごとの植物にふれたり、絵本などを通して興味を示していた。

合わせて、4歳5歳クラスが園庭で活動を行っている様子を見ていて、何をしているのか気にしている様子が見られている。

戸外だけではなく、室内で自然を感じられるような活動を行い、興味関心を深めて行きたい。

## 2. 活動スケジュール

### 【出発は子どもの興味からはじまる】

9月～10月

散歩に行き葉っぱや木の実を見つけ、遊びに使い楽しむ様子から自然に対して興味を持っていることに気が付く。室内でも自然に触れる機会を作る為、写真などを貼り室内の環境を整える。

### 【自然物を使っておままごとあそびを充実させる】

11月 戸外で拾ってきた木の実や枯れ葉を使いおままごとで使用する。

購入品の”くぎってフェンス”を使い、おままごとコーナーを設置した。コーナー分けすることで、おままごと集中できる環境を整える。

### 【おままごとコーナーの環境を充実させる】

12月～1月

おままごと用の食べ物の玩具を増やす。

友だちとの関わりの中で、様々な言葉のやり取りができるようになったり、関わり方がより活発になったことを確認する。おままごとコーナーにテーブルを設置する。

### 【フロッタージュに挑戦】

12月下旬には、購入品のクレヨンを使ってフロッタージュ（葉脈の写し絵）を行い、別の角度から発見が出来るようにする。上手く葉脈を出すことはできなかったが、保育者が行くと「葉っぱの形！」と反応する姿が見られた。

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

### 【室内の環境を整える】

くぎってフェンス・くぎって収納棚 2段 等

### 【おままごと発展しじっくりと遊び込めるために用意】

やわらかままごとフーズAセット・布製わくわくおべんとう

### 【自然物を使った制作に使用】

水で落とせるクレヨン12色

## 4. 探究活動の実践

### <活動の内容>

#### 【出発は子どもの興味からはじまる】

散歩先で自然物に興味を持つ。散歩先でどのような自然物に興味を示しているのか、観察する。

#### 【自然物を使っておままごとあそびを充実させる】

季節ごとの自然物のポスターを作り掲示したり、絵本を用意し室内の環境を整えると、指さしたり、言葉を発し楽しむ。あえて砂場道具を持って行かず、広場で自由に遊ぶ。色んな自然物に触れ合えるよう、様々な公園や遊歩道まで散歩を行い、自然物への興味が広がるようにした。

#### 【おままごとコーナーの環境を充実させる】

室内の環境を変え、おままごとコーナーを設置した事で、戸外から室内での活動に膨らんで行く。

#### 【フロッターージュに挑戦】

フロッターージュを行う。実際には葉脈を出すことはできなかったが、保育者が行くと「葉っぱのかたち」と反応する姿が見られた。活動により、子どもたちの探求心が芽生え、散歩先では散策する姿が多く見られたり「これはなに？」と問いかける様子が見られる。どんな自然物に興味を持ったのか、スタッフ同士共有し合う。子どもたちの興味を持っている様子や、触れ合う様子を写真に撮り、ドキュメンテーションを作成した。

#### 【振り返り】

保育者間で今回の活動や子どもたちの様子を振り返り、今後どのように繋げていくか話し合いをしたうえで発信していく。

### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

散歩先で虫や植物などの自然物に興味を示し「これはなに？」と保育者に質問をする。保育室内に自然物のポスターを貼ると、興味を示しじっくりと見る様子があった。秋になり、落ち葉や木の実を積極的に見つけようとする姿があり散歩に行く前には「どんぐりあるかな」と話す様子も見られた。

実際にどんぐりを集めると「持って帰る」と言うので、持ちかえりマラカスを作った。色づいた葉っぱにも興味を示していたので名前を伝えると覚え「イチョウだね」「もみじだね」と口にしていた。購入したクレヨンを使い、葉っぱの絵を描いたり、写し絵をして興味を深めた。

集めたどんぐりを砂場に持っていき、ケーキに乗せたり、石段に並べてお店屋さんごっこをする姿も見られた。保育者も一緒になっておままごとを楽しみ、より自然物に興味を持てるよう声掛けを行った。自然物を使ったおままごとから発展し、室内でのおままごと遊びにも変化が見られた。

今まではブロック遊びが人気で、おままごとで遊ぶ児が少なかったが、自然とおままごとで遊ぶ児が増えていた。テーブルを出すと、作った料理を並べて友だちや保育者と一緒に食べたり、野菜の名前にも興味を示すことが増えた。そこで新しいおままごと玩具とパーテーションを購入し、おままごとコーナーを設置した。コーナー分けすることで、集中して長い間楽しむことが増えてきた。おままごとをする中で「いただきます」「ごちそうさまでした」「おまたせしました」等の様々な言葉を使いながら楽しんでいる。



## 5. 振り返り

### <振り返りによって得た先生の気づき>

取り組み前は自然物に興味を示していたものの、自然物を使って遊んだり、おままごと遊びには興味を示していなかった。自然物を使っておままごとをおこなうことで、それまで興味を示さなかった子どもも興味をもつようになり、またお店屋さんごっこをするなど普段の遊びにも変化が見られた。

1歳児の成長も伴い、「もみじ」「イチョウ」「どんぐり」など名前を覚えて発したり、散歩の道中では「どんぐりあるかな？」と期待を膨らませる姿もあった。戸外での自然物を使ったおままごと遊びから、保育室内でのおままごと遊びにも変化が見られ野菜に興味を持ち始め「これはなに？」と野菜の名前を聞く姿があった。

自然へのかかわりやおままごとあそびの経験を土台に、今後は実際に野菜を育てたり、食育にも繋がっていったらと思う。